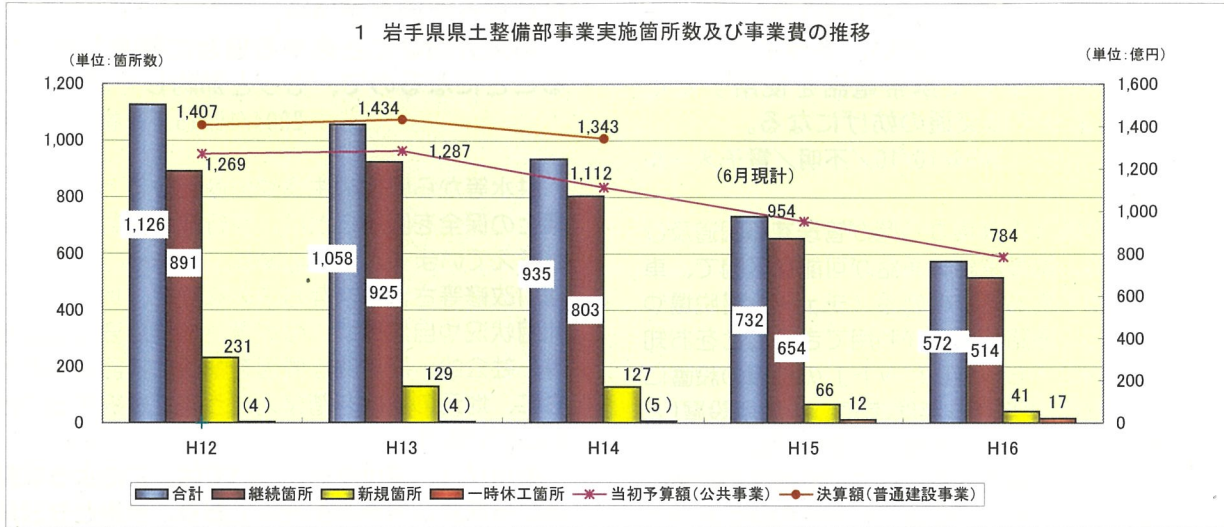


データウォッチング

本県の社会資本整備の状況等をデータで見るコーナー。今回は、県土整備部の事業実施箇所数と事業費の推移について、みてみましょう。

先月号でも紹介しましたとおり、本県では厳しい財政状況の中、平成 16 年度の公共事業予算は、平成 14 年度比の 30%削減とされたところであります。

このため、限られた予算の範囲で、新規事業箇所の抑制や事業実施箇所を一時休工するなど、更なる「選択」と「集中」により、より効率的な予算の執行を一段と進めています。



・国直轄事業費負担金を含み、災害復旧事業費を除く。
 ・H14以前の一時休工箇所の()は、用地交渉の難航等により一時休工状態となっている箇所数を表す。

土木建築作品

Vol. 6 小本川水門

県民に親しまれている文化的価値の高い土木建築作品を紹介するコーナー

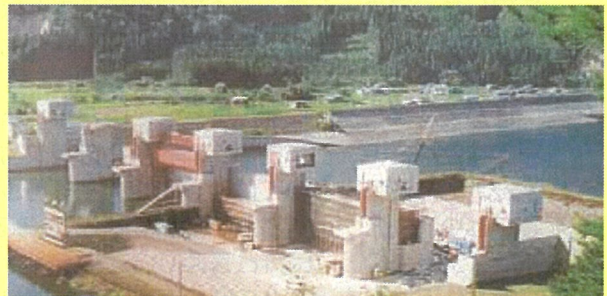
河川・海岸編

【小本川水門】

小本川は三陸高潮対策事業により、昭和 47 年度から防潮堤及び小本川水門の建設に着手しました。計画堤防高を三省協定 T.P.+13.00m 昭和 8 年三陸津波高とし、右岸下流は海岸堤防に接続し、左岸堤防は農水省防潮堤に接続することにより小本川流域の完全防護を図りました。また、小本川計画高水流量 3,000/sec を流下させるため 6 径間の水門が計画され、昭和 52 年度から水門本体工事に着手し、19 年間の歳月と 116 億円の巨費を投じ、防潮堤及びわが国最大級の津波対策としての小本川水門が平成 2 年 11 月に完成しました。

津波から街を防御するために重要な施設であり、岩手県に特有な、沿岸部の防災施設の象徴と言えるかも知れません。県には 794 基 (H15. 3 月末現在) の防潮水門がありますが、その中でも、35m 径間の鋼製水門 6 基からなる小本川水門は大規模なものです。

【資料】水門数：海岸統計 (平成 15 年度版 H15.3 月現在) 662 基 平成 14 年度潮位関連河川水門水門管理委託数 132 基



出所

「いわての土木遺産 100 選」((財) 岩手県土木技術振興協会発行)